

# 第 4 学 年

## 1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」

ー 国語科の学習を通して ー

## 2 育てたい力

### ◆表現力

○大事なことを落とさずに，筋道を立てて話す力

○考えをまとめながら話す力

### ◆コミュニケーション力

○共通点や相違点を考えながら話し合う力

○進んで思いや考えを交流させ，互いのよさを認め合う力

## 3 研究の視点と手だて

### [視点 1] 考えを交流する学習活動の工夫

○グループ活動の工夫

○指導計画への位置づけ

### [視点 2] 言語活動の工夫

○ワークシートの活用

○国語スキルタイムの活用

### [視点 3] 日常的な活動の工夫

○スピーチ

○日記

## 第4学年 成果と課題

### <成果>

#### 〔視点1〕考えを交流する学習活動の工夫

- 教室での衝立の利用や机の配置，多目的室での学習など，学習活動の場を工夫した。その結果，児童は集中して互いの発表を聞いたり考えを伝え合ったりすることができた。
- 2～4人程度の小グループでの活動は，言語活動が苦手な児童にとっても，聞き手として相手の発表内容や表現のよさを見つかったり感想や意見を交流したりすることに効果的であった。
- 報告書などある程度の長さの発表では，聴覚・視覚両面を活用することができるような発表方法をとることによって聞き手は安心して発表を聞くことができ，内容について自分の考えをもって交流を図ることができた。
- 指導計画の中に，小グループでの交流の場を位置づけた。このことにより，各学習段階において意見交換がさかんに行われ，交流活動に深まりが見られた。

#### 〔視点2〕言語活動の工夫

- 意見交換など交流の場での活動では，学習のねらいに沿ったワークシートを活用した。相手の伝えたいこと，それに対する自分の考え，さらに友達のよさを認め合いながらそのよい点を取り入れるなど，児童の意欲的な交流活動につながっていった。また，自分の発表に対する友達の感想がその後の児童の学習活動への意欲へとつなげることができた。
- 国語スキルタイムでは，互いに関わりあいながら学習したり互いの感想を記入させたりする言語活動を積み重ねた結果，文章を書くことを楽しんで行う児童が多くなり，友だちの内容のよさを見つけることに無理なく取り組むことができるようになり，交流活動に活かすことができた。

#### 〔視点3〕日常的な活動の工夫

- 朝や帰りの会では，テーマや時間を限定してスピーチすることにより，はじめ・中・終わりといった構成を工夫しながらスピーチを行う児童が増えてきた。また，聞き手も話しての内容をよく理解して質問や感想を持つなど，意欲的に聞く姿勢が見られるようになった。
- 日記や詩のたね探しなどを続け，生活や自然など自分の周りのことにも目を向け，友だちと共感できるようになった。

### <課題>

- ▲ 聞き手により分かりやすく伝えるための話し方の技法については，学習の中で計画的に指導し，スキルアップさせていかなければならない。
- ▲ 小グループでの活動では，話し手と聞き手双方の立場での児童全員を評価するのが難しかった。今後は教師の評価にもつながるワークシートを工夫していかなければならない。